

目的 上半身用衣服において、腕付根周辺を含む肩部の形態は、着心地に大きな影響を与え、また、パターン作成においても重要な部位である。表面形状研究の方法としては、通常、包帯石膏法や和紙法等が用いられているが、今回は、写真撮影から近似表面展開図作成までの一連の作業をすべて、被験者に非接触で行なうことを目的とし、自動処理による種々の展開法について検討した。

方法 撮影部位は、左右の上腕部を含む肩部周辺とし、モアレカメラ FM80 を用いて撮影した。被験者は、女子石膏像とし、交角一定の接平面展開法等7方法の近似表面展開による展開図を作成した。それらから、3方法を選出して着用実験を行ない、肩部の特徴をよく表わしている方法を最終的な展開法とした。次に、その方法を用いて、前回発表の肩部形態の分類に基づいて選出しに被験者3名についての展開図を作成し、適合性についての確認を行なった。

結果 7種の展開法のいずれにおいても展開図の作成が可能であり、中でも、交角一定(10°)の接平面展開法による展開図が、被験者である石膏像との一致性が高く、また、肩部形態の異なる3名の被験者の展開図においても、それぞれの形態的特徴をよく表わし、特に、上腕骨頭付近を含む肩部上面の一致性は高かった。